

大地申12号 2017年度「ライフサイクルの深度化」の運用に関する緊急申し入れその4

【組合申し入れ項目】

2. 施策の目的実現と制度としての定着を目指し、施策を担う関係職場の負託に応える為、生活設計等に配慮し、本人希望の運用とすること。

(組合) 施策を進めていく上で希望が100%合致するとは思っていない。意見交換しながら本人希望に近づけていく努力をするべきだ。現場はそうっていない。同じことを繰り返すのではないか。

(会社) 面談だけでは表れない所もある。それ以外の所も把握に努めていく。

(組合) 覚書にある生活設計等に必要な配慮をする事はこれまでと変わらないか。

(会社) 変わらない。

(組合) 覚書を知らないとか、10年間で施策が劣化している。施策の趣旨等、伝えているのは組合だ。強い決意を持って進めていくべきだ。納得感は沸かない、しっかり指導すべきだ。

(会社) 施策の趣旨については前回交渉議論であった通り、対象職場で薄れている事を受け会社として検討していく。

(組合) 職場が劣化している現状を重く受け止め、早急に職場実態を点検すべきだ、今事象については納得できない。本人希望を尊重した覚書に基づく運用を強く求める！

(会社) 議論の内容は理解している。ただ、議論している事が全て叶うわけではない。しかし議論があったことは積み上げていかないとはいけない。今職場から出た問題点は今後出ない施策にして行きたい。

覚書通り「生活設計に必要な配慮は行う」事を確認！
積み上げ議論の必要性は一致しつつ、議論している事が全て叶うわけではないと対立！



**10年間に及ぶ議論を振り返り「ライフサイクルの深度化」施策の
 検証運動を職場からつくり上げよう！！**